

マイブんだより

平成24年8月7日 第4号

発行 都城市教育委員会事務局

文化財課

3号から間が空いてしまいました。この間にたくさんの出前授業、体験学習会がありました。文化財課は担当を始め、全職員でその準備や対応に大わらわでした。順次掲載していきますので、お楽しみに！！

○ 明道小学校出前授業・体験学習会～6月11日 第4回弥生時代編～

みなさんは、弥生時代と聞いて何を思い浮かべますか？

6年生は、授業で習っているのでその復習も兼ねています。始めに、弥生の名前の由来の説明です。みなさんをご存知でしょうか？ 縄目の文様の縄文土器とは違う土器が見つかった場所、東京都文京区弥生町から名前がついたのです。縄文は土器の名前から、弥生は町の名前から付いたのです。

では、どんな時代だったのか子どもたちに質問です。「米づくりが始まった」、「争いがおこった」、「縄文時代と土器のデザイン、



模様が違う」などいろいろな答えがでてきました。技術革新などによって発展する現代と同じように、稲作によって多くのことが大きく発展した時代です。



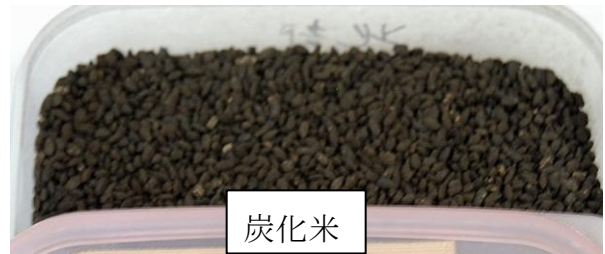
稲作の伝播や都城での始まりについては、「マイブんだより第3号」で、「米づくり」を勉強した山田小学校の出前教室で紹介していますが、同じように2500年以上前に中国から朝鮮半島を経由して北部九州に伝わり、全国に広まったこと。都城でも北部九州と変わらない時期の水田跡(坂元A遺跡)が発見されていることを、

遺跡マップやDVDを見せながら説明しました。この中には、米づくりが行われていた弥生時代のムラの様子や都城盆地の代表的な遺跡の位置も入っています。子どもたちにわかりやすいように、明道小学校に一番近い、弥生時代のムラとして高田遺跡を紹介しました。しかし、名前だけでは地図上でも場所が分かりません。「早鈴町のジャスコのところだよ」と説明すると驚いていま

ました。身近なところに遺跡があると、興味とともに親しみもわくようです。



このほか、実際に米が見つかった平田遺跡ではいろいろな形の住居や建物、米、ドングリなどを、儀式を行った後が見つかった坂元B遺跡では、土器がゴロゴロ転がっていたことを紹介しました。見つかった米は、2000年位前のもので、真黒な炭の状態で見つまっていることから炭化米と呼ばれています。生のままでは残らなかったでしょう。



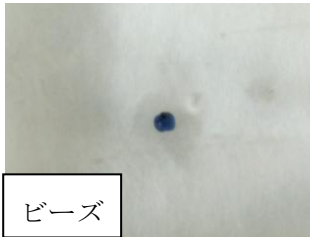
炭化米



石包丁

この後、石器や土器、木製品などのさまざまな道具を、実際に触ったりして観察してもらいました。大きい甕や蓋のある土器もありましたが、子どもたちは取っ手が付いた土器やミニチュアの土器に興味を示していました。また、土

器の材料となる粘土や混ぜ物、形の違いで、作られた地域が違っていることも驚きの発見だったようです。



ビーズ



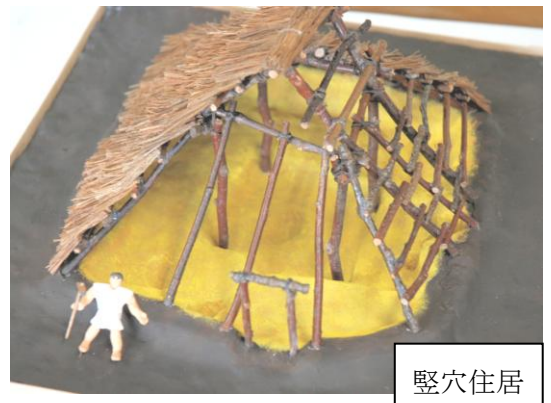
勾玉

この弥生時代には、鉄の道具やガラス製のビーズが伝わったことを話したところ、今あるものとほとんど変わらないものがこの頃からあったことに、大変驚いていました。



最後に子どもたちからの質問を受けました。まず、竪穴住居の屋根の高さは何m?でした。これは、現物があるわけではないので、次回までに調べておきますと宿題にしたところですが、火事

で焼けた5m四方の住居跡から、炭化して残っていた2.5mの斜めの柱が見つかり、それから推定して2m以上はあるのではないかと考えられています。炭になったものは残っていくのですね。次は、炭化米についてです。「食べられますか」と「県内ではほかで見つかりますか」との問いでした。残念ながら、炭になっているので料理もできないし、食べられません。そして、炭化米が見つかったのは都城では1か所だけで、県内でもこんなにたくさんの量は見つかりません。大変貴重な資料なのです。



竪穴住居

子どもたちにとっては、弥生時代は縄文時代より身近に感じるのかもしれませんが。反応は様々ですが、興味がわき、驚きを感じているのがわかります。さあ、次は古墳時代です。どんなセットが登場するかお楽しみに！